

危険物新聞

第551号

発行所 財団法人 大阪府危険物安全協会

編集人 松村光惟
発行人

大阪市西区新町1丁目5-7
四つ橋ビル

TEL 06(6531)9717・5910

定価 1部 60円

年次大会開催

11月9日、KKRホテルオオサカで



開会の挨拶をされる鴻野理事長

(財)大阪府危険物安全協会では、平成11年度、年次大会を11月9日(火)、大阪市中央区のKKRホテルオオサカで開催した。

当日は特別来賓をはじめ、府下消防本部消防長、予防課長をお招きし、府下協会長、事務局長等約160名の出席のもとに行なわれた。

大会は、鴻野理事長の挨拶で始まり、特別来賓の河野大阪府消防防災安全課長より知事祝辞、池田大阪府下消防長会会長より祝辞をいただいた。

その後、松村専務理事より平成11年度事業概要の報告の後、懇親会へと移行した。

また、参加者全員に平成11年度危険物安全運動の推進にかかる特製テレホンカードが配布された他、府下各協会より、それぞれの地域特産品や地元製造の物品等多数の景品を提供いただき、福引抽選会が行なわれ、終始なごやかな雰囲気の中、年次大会が滞りなく終了した。

第4回 危険物取扱者試験

2月13日(日)、府大で

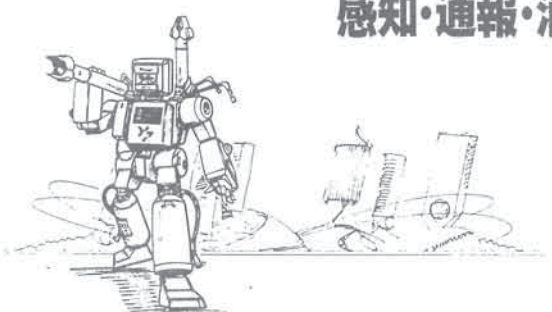
(財)消防試験研究センター大阪府支部では、平成11年度第4回危険物取扱者試験を2月13日(日)、堺市の大阪府立大学で次のとおり実施する。

試験日	2月13日(日) ・乙種4類(午前・午後) ・甲種、4類以外の乙種、丙種(午後)
試験会場	大阪府立大学(堺市)
願書受付日	1月19日(木)、20日(木)、21日(金)
願書受付場所	(財)消防試験研究センター大阪府支部 大阪市中央区谷町2-2-22、NSビル9F TEL 06-6941-8430

※試験当日の会場集合時間は、午前：9時30分、午後：1時。



防火設備は、さまざまな防火機器やシステムによる安全の構築です。
総合防災メーカー「ヤマトロテク」は、感測・知らせ・消火・抑制を安全確保の「ベスト」に、目的に沿った防火機器の研究開発を、この「エントランスシステム」で完成させています。
防災にも快適環境づくりの「エントランスシステム」が、



かんじる しらせる けす
感知・通報・消火
・yamato...

ヤマトスロテック株式会社

本社 〒537-0001 大阪市東成区深江北2-1-10 TEL.(06)6976-0701代 東京本社 〒108-0071 東京都港区白金台5-17-2 TEL.(03)3446-7151代

大阪府消防試験研究センター大阪府支部

危険物取扱者試験受験準備講習会 甲種、乙4、丙種について

受験準備講習会は、甲種、乙種4類、丙種について、大阪、堺、吹田など府下8会場で開催の予定である。

なお、大学、高校及び各種学校の学生については、学生割引になるので、申込時に学生証を提示のこと。

土・日コースは電話予約で

土曜コース(定員120名)、日曜コース(定員90名)は、希望者が多数のため、電話予約による受付を行なっている。

受講希望者は、電話(06-6531-9717)で予約されたい。ただし、満席になり次第締切ります。

10月の試験結果

甲種 48.9%、乙4 40.5%

(財)消防試験研究センター大阪府支部では、平成11年度第2回危険物取扱者試験を、10月10日、近畿大学で実施したが、その結果が11月5日に発表された。

試験区分別合格率は次のとおりである。

区分	受験者数	合格者数	合格率(%)
甲種	397	194	48.9
乙1	89	71	79.8
乙2	115	73	63.5
乙3	83	58	69.9
乙4	3,639	1,473	40.5
乙5	128	98	76.6
乙6	156	92	59.0
丙種	980	593	60.5

最近の通達

危険物規制の技術基準改正

計量単位のSI化、10月1日より

計量法の改正により、本年の10月1日(以下「施行日」という。)から危険物規制事務に係る技術上の基準における計量単位の一部について、国際単位係(以下「SI単位」という。)を使用することとなりました。

自治省消防庁では、H11年9月24日付、消防危第86号、「危険物の規制事務に係る技術上の基準における計量単位のSI化について」を発令し、周知の徹底を図っている。

以下にその概要を示す。

記

1 施行日前に発せられた通知の計量単位の読み替え及び換算について

施行日前に発せられた通知(以下「既発通知」という。)にSI単位以外の単位(以下「従来単位」という。)が使用されている場合は、3に示すものを除き、表1に従いSI単位に読み替えるものとする。

この場合において、換算は表1の「換算」欄に示すとおりに行うものとし、換算後の数値は四捨五入を行うことにより、換算前の数値の有効数字の桁数とすること。

表1

	従来単位	SI単位	換算
力	kgf	N	1 kgf=10 N
モーメント	kgf・m	N・m	1 kgf・m=10 N・m
圧力	mmAq kgf/cm ²	Pa	1 mmAq=0.01 kPa 1 kgf/cm ² =0.1 MPa
応力	kgf/cm ²	N/mm ²	1 kgf/cm ² =0.1 N/mm ²
熱量	cal	J	1 cal=4.2 J
時間	sec	S	読み替えのみ

2 既発通知の日本工業規格に規定する材質等の読み替えについて

3 に示すものを除き、既発通知に表 2 の左欄に掲げる材質等に係る日本工業規格が引用されている場合は、同表右欄のとおり読み替えるものとする。

表 2

現 行		改 正 後	
JISB2211「5kgf/cm ² 鉄鋼製管フランジの基準寸法」		JISB2238「鋼製管フランジ通則」	
JISB2212「10kgf/cm ² 鉄鋼製管フランジの基準寸法」		〃	
JISB2213「16kgf/cm ² 鉄鋼製管フランジの基準寸法」		〃	
JISB2221「5kgf/cm ² 鉄管さし込み溶接式フランジの基準寸法」		JISB2312「鋼製溶接式管フランジ」	
JISB2222「10kgf/cm ² 鉄管さし込み溶接式フランジの基準寸法」		〃	
JISB2223「16kgf/cm ² 鉄管さし込み溶接式フランジの基準寸法」		〃	
JISB2312「配管用鋼製突合せ溶接式管継手」	PG38	JISB2312「配管用鋼製突合せ溶接式管継手」	PG370
〃	PS42	〃	PS410
JISG3101「一般構造用圧延鋼材」	SS41	JISG3101「一般構造用圧延鋼材」	SS400
JISG3103「ボイラ及び压力容器用炭素鋼及びモリブテン鋼鋼板」	SB42	JISG3103「ボイラ及び压力容器用炭素鋼及びモリブテン鋼鋼板」	SB410
JISG3106「溶接構造用圧延鋼材」	SM41	JISG3106「溶接構造用圧延鋼材」	SM400
〃	SM50	〃	SM490
JISG3112「鉄筋コンクリート用棒鋼」	SD30	JISG3112「鉄筋コンクリート用棒鋼」	SD295
〃	SD35	〃	SD345
〃	SR24	〃	SR235

3 既発通知の個別改正について

下記に掲げるものについては、前記 1 及び 2 によらず下記のとおり改正するものとする。

- (1) 「移動タンク貯蔵所の位置、構造及び設備の技術上の基準に関する指針について」(昭和48年3月12日付け消防予第45号)中の別紙、第3「3. 2. 2 箱枠の強度計算方法」を別添イに示すように全部を改める。
- (2) 「防油堤の構造等に関する運用基準について」(昭和52年11月14日付け消防危第162号)中の「別記1 防油堤の構造指針」及び「別記2 既存油堤の改修指針」を別添ロに示すように、「別記4 二次防油堤の構造指針」を別添ハに示すように全部を改める。
- (3) 「可撓管継手の設置等に関する運用基準について」(昭和56年3月9日付け消防危第20号)中の「別添 可撓管継手に関する技術上の指針」を別添ニに示すように全部を改める。
- (4) 「可撓管継手の設置等に関する運用基準の取扱いについて」(昭和56年8月14日付け消防危第107号)中の「別紙 繰返し寿命計算式例」を別添ホに示すように全部を改める。
- (5) 「可撓管継手に関する技術上の指針の取扱いについて」(昭和57年5月28日付け消防危第59号)中の「別添 耐震性能評価基準」を別添ヘに示すように全部を改める。
- (6) 「危険物の規制に関する規則の一部を改正する省令等の施行について」(昭和58年4月28日付け消防危第44号)中の第2、2及び3を別添トに示すように全部を改める。
- (7) 「杭又はリングを用いた特定屋外貯蔵タンクの基礎及び地盤に関する運用基準について」(昭和57年2月22日付け消防危第17号)中の「別紙 杭又はリングを用いた特定屋外貯蔵タンクの基礎及び地盤に関する運用基準」第2を別添チに示すように全部を改める。
- (8) 「岩盤タンクに係る屋外タンク貯蔵所の規制に関する運用基準等について」(昭和62年5月19日付け

消防危第39号)の一部を次のとおり改める。

ア 別記2、第5、1中、下表左欄の式を右欄の式に改める。

現 行	改 正 後
$H_w = 10P + H_0$ H_w : 垂直距離 (m) P : 岩盤タンクの最大 常用圧力 (kg/cm ² G) H_0 : 15m	$H_w = 0.1P + H_0$ H_w : 垂直距離 (m) P : 岩盤タンクの最大常 用圧力 (kPa) H_0 : 15m

イ 別記2、第6、3(2)ア「主荷重に対する許容応力」を下表のとおり改める。

現 行		改 正 後	
材 質	許容引張応力 (kg/cm ²)	材 質	許容引張応力 (N/mm ²)
SD24, SR24	1,400	SR235	140
SD30	1,800	SD295A, SD295B	180
SD35	2,000	SD345	200

ウ 別記2、第6、3(2)イ「主荷重と従荷重の組合せに対する許容応力」を下表のとおり改める。

現 行		改 正 後	
材 質	許容引張応力 (kg/cm ²)	材 質	許容引張応力 (N/mm ²)
SD24, SR24	2,100	SR235	210
SD30	2,700	SD295A, SD295B	270
SD35	3,000	SD345	300

(9) 「危険物の規制に関する政令等の一部を改正する政令 (危険物の試験及び性状に係る部分) 並びに危険

物の試験及び性状に関する省令の公布について」(平成元年2月23日付け消防危第11号)の一部を下表のとおり改める。

	試 験 名	現 行	改 正 後
別添1第1.1(4)ア(イ)	燃焼試験	86cal/(m ² ・hr・°C)	0.1W/(m ² ・°C)
別添1第1.6(2)イ	鉄管試験	1,530Kgf/cm ²	150HPa
別添1第5.1(2)ア(ア)	熱分析試験	50Kgf/cm ²	5 MPa
別添1第5.2(1)オ	圧力容器試験	6±0.5Kgf/cm ²	0.6±0.05MPa
別添2.5(2)イ(エ)	可燃性液体量の測定	1mmHg	100Pa

(10) 「海上タンクに係る屋外タンク貯蔵所の規制に関する運用基準について」(平成元年4月10日付け消防危第33号) 別記3中の「最大常用圧力」、「作動圧」及び「封入圧力」の単位を「Kgf/cm²」から「KPa」に改める。

(11) 「確認試験の結果に基づく危険物の判定について」(平成5年3月24日付け消防危第21号)の一部を次のとおり改正する。

ア 別添1「確認試験結果報告書」について

(ア) 第一類の「燃焼試験」及び「大量燃焼試験」、第二類の「小ガス炎着火試験」並びに第三類の「自然発火性試験」に係る無機質断熱板の熱伝導率の単位を「cal/m²・hr・°C」から「W/(m²・°C)」に改める。

(イ) 可燃焼固体類の「報告書の表紙」及び「燃焼熱量(総発熱量)測定」に係る燃焼熱量の単位を「cal/g」から「kJ/g」に改める。



HATSUTA

株式会社 初田製作所

大阪本社 千573 大阪府枚方市相模田3-5 TEL. (0720)56-1281/4
東京本社 千105 東京都港区芝大門2丁目-7 TEL. (03)3434-4841

原点はロスフリー・イン・アクションです。



ハツタはあらゆるセーフティニーズにおこたえする企業をめざします。

頑固な夢がある。
そこにある。

- (ウ)第五類の「熱分析試験」に係る発熱量の単位を「cal/g」から「J/g」に改める。
- イ 別添2「確認試験結果報告書(データベース登録用)」について
- (ア)第一類の「燃焼試験」及び「大量燃焼試験」、第二類の「小ガス炎着火試験」並びに第三類の「自然発火性試験」に係る無機質断熱板の熱伝導率の単位を「cal/m・hr・℃」から「W/(m・℃)」に改める。
- (イ)可燃焼固体類の「報告書の表紙」及び「燃焼熱量(総発熱量)測定」に係る燃焼熱量の単位を「cal/g」から「kJ/g」に改める。
- (ウ)第五類の「熱分析試験」に係る発熱量の単位を「cal/g」から「J/g」に改める。
- (12)「消防設備等の着工届出に係る運用について」(平成5年10月26日付け消防危第81号)の一部を次のとおり改正する。
- ア 別記様式2中の「加圧圧力」及び「標準放射圧力」の単位を「Kgf/cm²」から「MPa」に改める。
- イ 別記様式3中の「耐圧試験圧力」の単位を「Kgf/cm²」から「MPa」に改める。
- (13)「危険物の規制に関する規則の一部を改正する省令等の施行について」(平成6年9月1日付け消防危第73号)中の第3、1を別添りに示すように、別添3を別添ヌに示すように、別紙1から5を別添ルに示すように全部を改める。
- (14)「引火」の取扱い並びに合成樹脂の不燃性及び難燃性の試験方法について」(平成7年5月31日付け消防危第50号)の別記1、1、アの「熱伝導率0.06kcal/mh℃」を「熱伝導率0.07W/(m・℃)」に改める。
- (15)「深層混合処理工法を用いた特定屋外貯蔵タンクの地盤の運用基準について」(平成7年11月2日付け消防危第150号)中の第2を別添ワに示すように全部を改める。
- (16)「準特定屋外タンク貯蔵所に係る技術基準等に関する運用について」(平成11年3月30日付け消防危第27号)中第1及び第2を、別添ワに示すように、別添1及び別添2を別添カに示すように、別紙1及び別紙2を別添ヨに示すように全部を改める。

4 その他

- (1) 施行日において現に消防法第11条第1項の規定により許可を受けている製造所、貯蔵所又は取扱所の構造及び設備で、同日において現に存するものうち、前記1から3に示す読み替え若しくは換算又は改正により、技術上の基準に適合しないものの構造及び設備に係る技術上の基準については、これらの読み替え等に係わず、従前の例による。
- (2) 施行日以降の申請又は届出については、従来単位を用いることはできないものであるが、施行日前に作成した図書については、平成12年3月31日までの間は、従来単位をSI単位に換算しても差し支えないものであること。
この場合、従来単位による値を括弧書きで併記すること。
- (3) 施行日以降においても、圧力計等の測定器の表示は従来単位でも差し支えないものであるが、点検、整備等の機会をとらえ、SI単位による表示のものに交換することが望ましいものであること。
- (4) 前記1から3に示した既発通知のSI単位化についてのフローシート(次ページ)を参考として以下に示す。
(※別添及び別紙については省略)

空調設備機器製造・販売

オイルタンク用液面計
遠隔式警報ユニット液面計
各種液体タンク用液面計
フロートスイッチ・微圧スイッチ
タンク部品一式

独自の技術により、正確・安全
ローコストを追求する

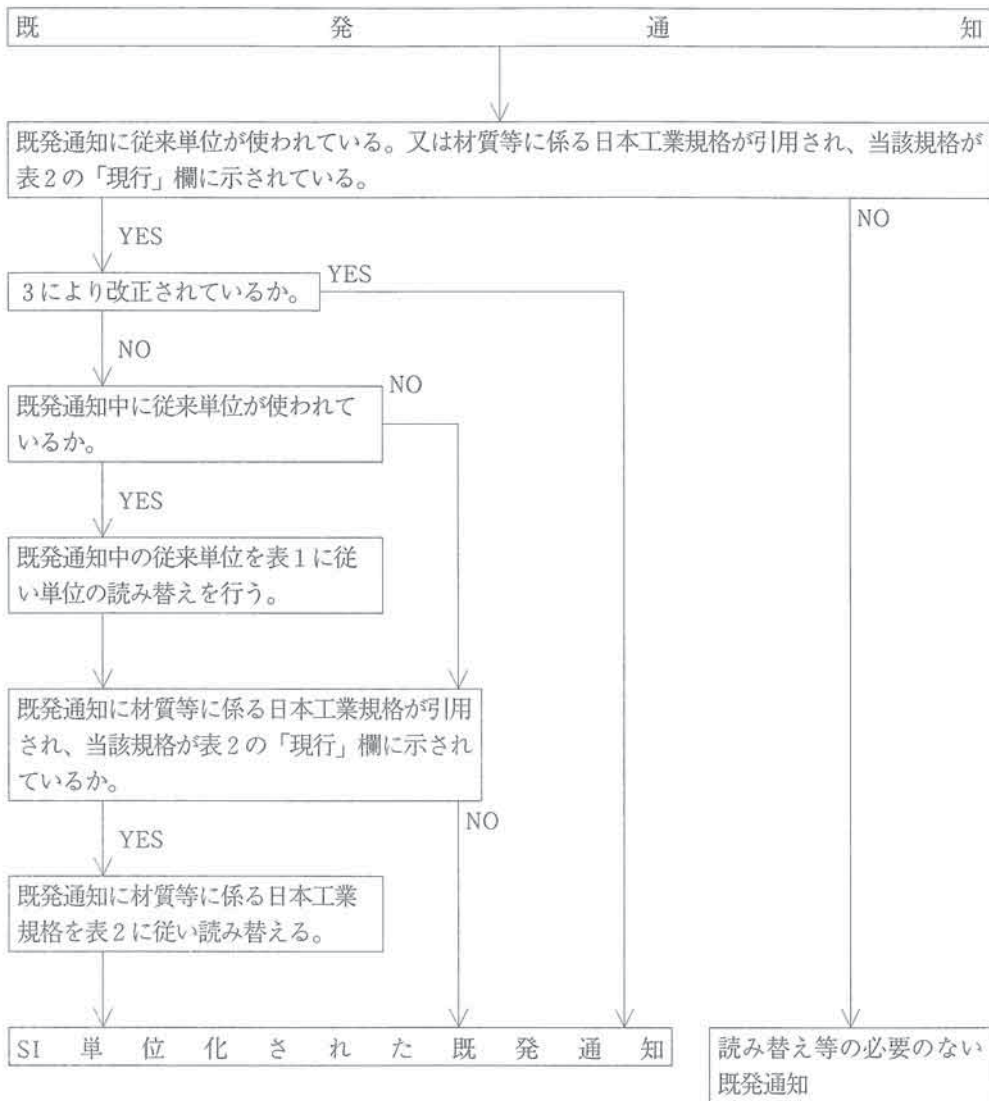
GIKEN

TEL.06(6358)9467(代表)

株式会社技研

〒530-0043 大阪市北区天満4丁目11番8号 技研ビル ☎6358-9467-8

既発通知のSI単位化についてのフローシート



**時代をリードする
アクション&ハイテクノロジー**

SUPER GYRO LADDER ACT
先端屈折はしご車 MLJS4-30
高所等での消火・救助活動をサポートする
先端のはしごが屈折する画期的なはしご車

SUPER GYRO LADDER WT
水路付はしご車 MLGS4-30W
高所等での消火活動に威力を発揮する
大容量放水の水路付はしご車

MURITA

NEW KOMBINAT SYSTEM

大型高所放水車
MQA2-22



『省力化合格機種』

大型化学車
MC-BC



泡原液搬送車



〒544-8585 大阪市生野区小浜東5丁目5番20号
Tel.06-6756-0110 Fax.06-6754-3461
東京 大阪 名古屋 福岡 仙台 富山 松山

株式会社 **モリタ**

平成12年度 危険物安全週間 推進標語の募集

主催 消防庁／地方公共団体／全国消防長会／全国危険物安全協会

危険物の保安に対する意識の高揚と啓発を推進するため毎年6月の第2週は危険物安全週間とされています。この週間の行事を推進するため、危険物災害の防止と危険物の貯蔵・取扱いの安全を呼びかける標語を募集します。なお、最優秀作は危険物安全週間推進ポスター（モデル：プロ野球ヤクルトスワローズの古田敦也選手さん）に活用する予定です。

応募方法 郵便はがき1枚につき、標語1点とします。郵便番号・住所・氏名（ふりがな）年齢・性別・職業・電話番号を必ずご記入下さい。
応募作品は未発表のものに限ります。
※官製はがき以外の応募は無効とします。
また、記入事項に不備がある場合も無効とします。

応募資格 年齢、職業、性別等の制限はありません。

締切 平成11年12月27日(月)必着

選考方法 関係者行政機関・学職経験者等による標語審査委員会の厳正な審査によって行います。

賞

- 最優秀作 1点
消防庁長官賞と副賞20万円
- 優秀作 1点
全国危険物安全協会理事長賞と副賞10万円
- 優良作 10点
記念品
※入選作品の発表は入選者だけにお知らせします。なお入選作品の著作権は主催者に帰属するものとします。
- その他
危険物安全週間制定10周年を記念して、応募者全員の中から抽選で100名に特製テレホンカードを差しあげます。(賞品の発送をもって発表にかえます。)

あて先 〒105 東京都港区虎ノ門2丁目9番16号-0001
日本消防会館5階
財団法人全国危険物安全協会内
危険物安全週間推進協議会
☎03-3597-8393



〈過去の推進標語〉

(最優秀作品)

- 平成2年度 “まさか”より“もしも”で守ろう 危険物
- 3年度 危険物いつも本番待ったなし
- 4年度 心・技・知・危険物には真剣勝負
- 5年度 危険物その時その場が正念場
- 6年度 一瞬のすきも許さぬ 危険物
- 7年度 確実な 攻守がきめての 危険物
- 8年度 危険物 むき合う心 いざ集中
- 9年度 気を抜くな 扱う相手は 危険物
- 10年度 安全は日々の気持ちの積み重ね
- 11年度 危険物 一手先読む 確かな点検

*一般公募は平成2年度から実施しています。

危険物取扱者準備講習 ご案内

平成11年度第4回危険物取扱者試験実施に際し、受験者予備知識向上のため、次のとおり受験準備講習会を開催いたします。

1. 日時・会場

種別	講習日	時間	会場
甲種	1月24日(月)、1月26日(水)、1月27日(木)	9時30分～16時	大阪府商工会館 (地下鉄 本町駅17号出口スグ)
乙種 4類	1期	1月25日(火)、1月26日(水)	大阪府商工会館
	2期	2月3日(木)、2月4日(金)	大阪府商工会館
	3期	1月27日(木)、1月28日(金)	堺市民会館 (南海高野線 堺東駅ヨリ8分)
	4期	2月2日(水)、2月3日(木)	吹田メイシアター (阪急千里線 吹田駅ヨリ5分)
	土曜コース	1月22日(土)、1月29日(土)	大阪府商工会館
	日曜コース	1月23日(日)、1月30日(日)	大阪科学技術センター (地下鉄四ツ橋線 本町駅ヨリ5分)
丙種	2月7日(月)	9時～16時	大阪府商工会館

(注)甲種は3日間で、乙種(1期～4期)と土曜コースは2日間で1コースです。

2. 受付場所と受付日時

- ① 四ツ橋ビル以外は、本会より各所に係員が出張して受付しますので、時間内をお願いします。
- ② 各受付場所とも、各講習会場の受付数を割り当てておりますので、満席の節は受付ができませんからご了承下さい。
- ③ 申込手続きは代理でも結構です。
- ④ 下記受付場所と受付日時で申込が出来ないときは当協会TEL06-6531-9717へお問合せ下さい。

受付場所		日時
東大阪市西消防署内 (近鉄・小阪駅北へ6分)	東大阪市西防火協会	1月12日(水) 午前10:00～11:30
守口消防署 (地下鉄・守口駅前)	守口・門真防火協会	1月12日(水) 午後2:00～4:00
豊中市消防本部内 (阪急宝塚線・豊中駅南へ5分)	豊中防火安全協会	1月13日(木) 午前10:00～11:30
茨木市消防本部内 (JR・阪急茨木駅より12分)	茨木市災害予防協会	1月13日(木) 午後2:00～4:00
岸和田市消防本部内 (南海・岸和田駅ヨリ西へ10分)	岸和田市火災予防協会	1月14日(金) 午前10:00～11:30
堺市高石市消防本部内(南海・湊駅北へ6分・大浜南町)	堺市高石市防災協会連合会	1月14日(金) 午後2:00～4:00
吹田市消防本部内 (JR・阪急吹田駅ヨリ約14分)	吹田市危険物安全協会	1月17日(月) 午後1:30～4:00
四ツ橋ビル8階 (地下鉄・四ツ橋駅北出口2号)	(財)大阪府危険物安全協会	1月18日(火) 3日間とも
		1月19日(水) 午前9:30～午後4:30
		1月20日(木) (ただし、正午から40分間昼食休み)

3. 日曜・土曜コースの申込方法

日曜コース(定員120名)、土曜コース(定員90名)は電話(06-6531-9717)で予約受付、定員に達し次第締切。

4. 会費

テキスト不要の場合は、甲種・乙種、各2,000円割引(テキストは平成11年度用改訂版を使用)

種別	会員	会員外
甲種	16,800円	18,900円
乙種4類	12,600円	14,700円
乙種(土曜コース)	13,650円	15,750円
乙種(日曜コース)	14,700円	16,800円
丙種	6,300円	7,350円

(注)1、消費税込の料金です。

2、大学、高校、各種学校の学生については、学生割引として会費は会員扱いとします。(申込時に学生証を提示すること)